

第 2 回地区意見交換会における意見等に基づく資料

■委員からの意見

中南地区は他地区と比較して志願倍率等が高い状況の中、他地区と同様に学級減をしなければならない理由を明らかにしていただきたい。

1 募集学級数の見込みの推計

- 募集学級数については、中学校卒業生数の見込みに基づき、地区ごとに以下の項目の実績を考慮して推計している。

- ・ 高校進学者数
- ・ 他県・他地区等からの入学者数
- ・ 他県・他地区等への入学者数
- ・ 私立高校への入学者数
- ・ 県立定時制課程・特別支援学校高等部への入学者数

- 県教育委員会としては、高校進学を希望する生徒が進学できなくなる事態が生じることを避けるという視点から、県立高校と私立高校を合わせて高校進学者が入学できるよう県立高校の募集人員を設定している。

2 学級減の必要性

- 中学生に安定した入試環境を提供するためにも学級数の削減は必要だと考えられる。

また、必要な学級減を行わない場合、学校によっては大幅な定員割れが生じることとなるなど、教育環境の質の確保・向上に結びつかないことも考えられる。

【参考：第 1～3 期実施計画の学級減数等の比較】

区分	項目	東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
第 1 期 (R 4 時点)	中学校卒業生数	2,492 人	985 人	2,112 人	1,583 人	578 人	2,418 人	10,168 人
	募集学級数	46 cl	19 cl	39 cl	33~34 cl	13~14 cl	39 cl	189~191 cl
第 2 期 (R 9 時点)	中学校卒業生数	2,216 人	824 人	1,935 人	1,486 人	464 人	2,262 人	9,187 人
	(対R4)	△ 276 人	△ 161 人	△ 177 人	△ 97 人	△ 114 人	△ 156 人	△ 981 人
	募集学級数	42 cl	16 cl	36 cl	30~31 cl	10~11 cl	36 cl	170~172 cl
	(対R4)	△ 4 cl	△ 3 cl	△ 3 cl	△ 3 cl	△ 3 cl	△ 3 cl	△ 19 cl
第 3 期 (R 14 時点)	中学校卒業生数	1,942 人	752 人	1,727 人	1,413 人	405 人	2,020 人	8,259 人
	(対R4)	△ 550 人	△ 233 人	△ 385 人	△ 170 人	△ 173 人	△ 398 人	△ 1,909 人
	募集学級数	37 cl	14 cl	33 cl	28~29 cl	9~10 cl	32 cl	153~155 cl
	(対R4)	△ 9 cl	△ 5 cl	△ 6 cl	△ 5 cl	△ 4 cl	△ 7 cl	△ 36 cl

■委員からの意見

令和 2 年度第 1 次進路志望調査において、中南地区の県立高校への志望者数が約 130 人減少した要因を分析していただきたい。

- 令和 2 年度と令和 3 年度の中学校卒業生数の比較では、弘前市の生徒は 1 人の減少見込みであるが、中南地区では 122 人減少する見込みとなっている。
- 第 1 次進路志望状況調査では、昨年度に比べて県立高校の志望者数が 136 人減少しており、中南地区全体の生徒数の減少が影響しているものと考えられる。